

ある若者との 出会い

人間牧場主 若松 進一

ある日、兼頭一司さんというひとりの若者から一本の電話がかかってきました。「人間牧場へお邪魔して色々なお話を聞きたい」というのです。人間牧場のオープンがタウン情報やFM放送で紹介されてから意外や意外、沢山の若者から「人間牧場は泊まれるのか」とか、「貸して欲しい」とか、中には兼頭さんのように「話が聞きたい」という問い合わせや申し込みがひっきりなしにあるのです。この現象をどう見たらよいのか、今までにない出来事なので最初のうちは正直迷ってしまいました。でもこの2年余り「若者とまちづくり」について「舞たうん」に執筆していることもあり、若者の意識と行動が知りたくて、寸暇を惜しんで会って来ましたが、兼頭さんの話は随分違った色合いでした。



兼頭さんは彼のプロフィールを見る限り、超エリートなので。今治西高校出身で東京大学経済学部を卒業し、トップ企業を経て松下政経

塾の26期生として学んでいるのですが、普通であれば学歴で鼻持ちならないはずなのに、何故か普通の好青年なのです。さらに驚いたのは政経塾といえれば政治家育成塾のように思っていました。彼の研究テーマは「共助型地域コミュニティの創造と伝播」だそうで、聞いて話して二度も三度も驚きました。僅かな出会いでしたがたまたま人間牧場に居合わせた同じ東大出身の農業者玉井さんとの議論もまさに正統派で、いい出会いのきっかけとなりました。その後彼は再び我が家に現れ、私の紹介でインターンとしてえひめ地域政策研究センターで約1ヶ月間の研修をさせてもらうことになりました。

えひめ地域政策研究センターとしてもこんな短期の研修は受け入れたことがないので戸惑いも見られましたが、最終的には年度末の慌しさを承知で受け入れてくれ、兼頭さんは、えひめ地域づくり研究

会議の20周年記念事業や、大分との交流事業、県内市町村巡りなど、1ヶ月とは思えない超過密で濃密な研修を終えて東京へ帰って行きました。彼との出会いはまるで台風襲来のような感じでしたが、彼との出会いで感じたことは次の5つだったような気がします。

① 悩みのはけ口は検索不可能

(学びの場と機会)

若者がまちづくりを志しても意外と検索不可能なのが現代社会です。本を読んだりインターネットでまちづくりの知識





を吸収できても、知恵を持った人に会う場所や機会は中々難しいようです。私には幸い私設公民館煙会所や人間牧場があり、私が自由人であるため兼頭さんに出会いました。私がいひめ地域づくり研究会の活動を通してえひめ地域政策研究センターとネットワークを持っていたことが検索キーとなったのです。

②悩みに応える(ケースワーカーの存在)

私はかつて青年団活動を経験し、教育委員会では社会教育の仕事をしてきました。また長年まちづくりの現場で夕日を地域資源として様々なまちづくりを実践してきました。ある意味でまちづくりの裏側にある反対や失敗といった辛酸もなめ、しかしまた知恵を加えた時の成功や

成果も知り尽くしています。まちづくりのノウハウや本質は誰でも知りたいもの、例え私が知らなくても私の知人友人はそれらを持ち合わせているのです。ケースワーカーたる人の存在は大きいものです。

③夢を語り夢を描く(人間力)

価値観が多様化する現代社会ではことさらに人間の生き方は千差万別です。将来の夢を語り夢を描くにはライフワーク(生活設計)が不可欠です。人間関係、健康、知識、金銭、感動など総合的な人間力がなければ、夢は語るだけで夢を描くことも夢を手に入れることも出来ません。人間力を養うには人間力を持った人との出会いによる感化以外はないような気がします。人間力の高まっていない私もこの人間力を持った人を求めて修行途中なのです。

④具体的な実践(実践家への道)

兼頭さんは「共助型地域コミュニティの創造と伝播」というテーマを持っています。創造は夢ですが伝播は種蒔きという実践です。種を蒔けば芽を出し花を咲かせ実がなるのは当然なのですが、太陽・水・肥料に技術が加わらなければいい収穫物は得られないのです。地域コミュニティの斜陽化という社会の逆風を追い風に変えるには自分を見失うことなく反転できる、フットワークの軽さが求められ



ます。創造知識だけで手足や心は動きません。伝播こそ無から有を生み出す知恵なのです。

⑤まちづくりのフィールド

まちづくりにとって最も大切なのは活動や運動の拠点たるフィールドです。情報が進み交通網が整備されて交流が盛んになり、日本や世界までもが身近な存在になりましたが、フィールドの存在は今も昔のままです。現代はまちづくりといいながらグローバル化してローカルコミュニティの存在を忘れがちですが、ある意味でのグローバル(グローバル+ローカル)な考えと行動が必要です。フィールドの設定なしにまちづくりは考えられないのです。

兼頭さんという若者の小さな夢物語は1ページを捲りました。次のページにはどんな物語が登場するのでしょうか。見届け、手助けしたいものです。